

令和7年度 施策評価シート

施策の大綱	5. 市民力・地域力の活性化	評価担当者
基本施策	(4) 人権の尊重とダイバーシティ社会の推進	市民文化部長 林 秀臣
目指す姿	市民一人ひとりが、互いに人権を尊重し合い、多様性を認め合いながら、共に暮らしています。	
関連する分野別計画	第4次亀山市男女共同参画基本計画	

SDGs

基本施策に関連するSDGsのゴール	4 質の高い教育をみんなに 5 ジェンダー平等を実現しよう 8 働きがいも経済成長も 10 人や国の不平等をなくそう 16 平和と公正をすべての人に 17 パートナリーシップで目標を達成しよう
SDGs推進の考察	ダイバーシティ社会の推進として、「ヒューマンフェスタin亀山」の開催や職員研修、行政出前講座など人権に関して様々な学習機会の提供を図ることができた。また、性別に関わらず誰もが平等に暮らしていける男女共同参画社会の実現に向けて学習機会の充実や啓発等に取り組むとともに、多様化する人権問題の解消に向けた啓発等の取り組みを人権擁護委員や関係機関等の様々なパートナーシップにより施策の推進を図ることができた。

■関連する主な事業

(単位:千円)

[illegible]

太字：主要事業

■成果指標

指標			現状値		実績値				目標値
					R4	R5	R6	R7	
1	人権啓発イベント参加者数	人	106	R3	150	157	200	283	300
2	審議会等における女性の登用率	%	33.5	R3	35.1	33.1	34.5	35.9	40.0
3	日本語教室の年間延べ受講者数	人	63	R3	300	534	680	565	600
4									
5									
6									
7									

■市民アンケート調査

項目			現状値 [R2]	1次 [R5]	2次 [R6]	市民アンケートの考察 (令和6年度施策評価内容を参考記載)
1	人権擁護や人権意識の啓発が進んでいる	重要度	0.82	0.95	0.85	人権及び男女共同参画に関する重要度は高い。その内、「男女が平等に社会参加できる環境が整っている」の満足度は低いながらも、市の審議会等の女性登用率が34.5%と前年度比で1.4ポイント上昇していることが、微増につながっていると推察される。一方、外国人住民との交流については、重要度・満足度とも低い状態が続いている。
2	男女が平等に社会参加できる環境が整っている	満足度	▲ 0.44	▲ 0.41	▲ 0.45	
		重要度	0.86	0.96	0.98	
3	外国人住民との交流が活発に行われている	満足度	▲ 0.26	▲ 0.30	▲ 0.27	
		重要度	0.57	0.69	0.46	
4		満足度	▲ 0.68	▲ 0.59	▲ 0.68	
		重要度				
		満足度				

■施策推進〔施策の方向〕

施策の方向	施策推進に関する考察
① 人権を尊重し合えるまちづくりの推進	学校、地域、企業などにおいて、人権に関する出前講座を行い、法務局等の関係機関との連携により相談体制の充実に努めた。今後も人権意識の高揚と把握に努めていく。
② 男女共同参画の推進	情報誌発行や市民育成講座の開催、女性相談等を通じて理解を深めた。今後も啓発及び女性の登用率の向上や女性に対する暴力の根絶等、意識の高揚に努めていく。
③ 多文化共生の推進	12言語相談窓口や電子版多言語広報、日本語教室の開催等により、外国人との相互理解を深めた。今後も市民活動団体と協働し、多文化共生の推進に取り組んでいく。
④	
⑤	
⑥	
⑦	

総合評価

人権を尊重し合えるまちづくりの推進については、人権施策基本方針に基づき、「ヒューマンフェスタin亀山」の開催をはじめ、人権啓発チラシの発行、市職員への研修のほか、学校や地域、事業所において「人権に関する出前講座」を開催するなど、様々な啓発活動に取り組んだ。また、法務局等との連携により相談体制の充実に努め、幅広い人権意識の高揚を図っているが、依然として、インターネット上の差別的な書き込みや、児童虐待、DV、障がいのある人や外国人への人権侵害など、社会の変化とともに人権課題は複雑化・多様化している。また、男女共同参画の推進については、啓発週間に併せて6月に情報誌の発行やパネル、のぼり旗を設置して啓発を行いつつ、県と連携した映画祭や男女共同参画市民育成講座を開催し、市民の男女共同参画に対する意識の醸成を図った。また、あらゆる分野において男女共同参画の視点を確保できるよう、市の審議会等における女性登用率が上昇するよう関係部署に働きかけた。また、第4次亀山市男女共同参画基本計画の計画期間が令和8年度に終了することから、次期計画策定の基礎資料となる市民アンケート調査を実施した。多文化共生の推進については、12言語対応の外国人相談窓口の継続や10言語対応の電子版多言語広報「かめやまニュース」の配信を行うとともに、日本語教室や日本語ボランティア養成講座を開催するなどして、外国人住民の暮らしにおける不安解消に努めた。一方で、市民アンケート調査の「外国人住民との交流が活発に行われている」の重要度及び満足度が低いように、多文化共生の実現に向けては課題もある。

B

まずまず進んだ

今後の展開方針

人権については、引き続き「ヒューマンフェスタin亀山」等を通じて、市民の人権意識を高めるための取り組みを進めるとともに、人権擁護委員や関係機関等との連携により、多様化・複雑化する人権課題の解決に向けて、更なる相談業務や啓発活動に取り組む。男女共同参画については、情報発信や啓発活動を行うとともに市民育成講座等を開催し、市民の男女共同参画に対する意識の醸成を図っていく。また、本年度実施した市民アンケート調査の分析や国・県の動向、これまでの施策や事業の進捗状況を踏まえて第5次男女共同参画基本計画の策定に向けて取り組んでいく。多文化共生については、多言語対応と相談窓口の充実に努めるほか、市民活動団体と協働して日本語教室を開催し、外国人住民が日本語を学習する機会を提供するなど、引き続き外国人住民が安心して暮らせるよう取り組みを進める。